

兵庫NIEニュース

第66・67号

発行 兵庫県NIE推進協議会 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社内
E-mail hyogo-nie@kobe-np.co.jp HP http://www8.kobe-np.co.jp/nie/hyogo/ TEL (078)362-7054 FAX (078)362-7424

NIE研究 3チーム発足

小規模校や私立校 特性に合わせ多様な活動

教育現場で新聞を活用するNIE(教育に新聞を)活動について、教員による自主的な研究グループが2021年度、兵庫県内に三つ誕生した。小規模校、小中高一貫教育を行う私立校など、学校の特性に合わせ、多様な活動を展開している。

「NIEで小規模校を繋ぐ研究チーム」(世話人=藤岡絵美・神戸市立淡河小学校教諭)▽「愛徳学園NIE研究会」(世話人=米田俊彦・同学園中・

高校教諭)▽「NIE学校間連携研究会」(世話人=近藤隆郎・神戸山手女子中学高校教諭)。

県内にはこれまで、1991年4月に発足した明石市のNIE研究会と、2020年4月、特色ある取り組みに「NIEの実践」を掲げて開校

した姫路市立豊富小中学校のNIE研究チームがあつた。新たに3グループが誕生し、県内の研究グループは五つになった。

(日本新聞協会NIEサイト・各地の教員研究組織に全国のグループを掲載)

事例紹介①【小規模校チーム】

県内4小学校が新聞合同製作

「NIEで小規模校を繋ぐ研究チーム」の活動の一環として、兵庫県内の4小学校が合同で作った新聞のオンライン発表会が昨年12月17日開かれた。児童たちはそれぞれの地元で取材した歴史や自然、町の話題について伝え合った。

神戸市北区の淡河小学校と有馬小学校、淡路市の大町小学校、養父市の宿南小学校。4校の児童はオンラインで自己紹介し合った後、11月に合同で歴史・観光編とトピックス編の新聞を作製した。

淡河小学校は江戸時代に大名が泊まった「淡河宿本陣跡」、有馬小学校は30年続けるホタルの飼育や幼虫の放流、大町小学校は但馬地域以外の県内で初め

て巣立ったコウノトリ、宿南小学校は県内一高い氷ノ山など、各校とも思い思いのテーマで取材した内容をアピール。発表後、お互いに質問や感想を交わした。

児童数の少ない学校にとって複数校によるオンライン授業は、子どもたちが多様な意見を聞き、考えを深め合う貴重な機会といえそうだ。

淡河小・有馬小(神戸)、大町小(淡路)、宿南小(養父)



4校の児童が合同製作した新聞のうち、トピックス編



④交流の感想を発表する児童②養父市八鹿町宿南宿南小③オンラインで交流する児童たち①神戸市北区淡河町秋原、淡河小

事例紹介②【愛徳学園研究会】

中学生が小学生に記事を解説

中学3年生が「ヒロシマ」をテーマに作った新聞の記事を小学6年生に分かりやすく解説し、平和の大切さ

を伝える授業が1月21日、神戸市垂水区歌敷山3の愛徳学園小・中学校であつた。

「愛徳学園NIE研究会」の活動の一環。同研究会は小学校から高校まで、NIEによる学びを継続発展さ

せよう活動している。

今回の取り組みは、兵庫NIEニュース第68号で報告する。

県内20校、実践校に指定

日本新聞協会は、NIE（教育に新聞を）の2021年度実践指定校に全国541校を決めた。兵庫県内では20校が指定された。

播磨特別支援など新規10校

541校の内訳は、小学 南▽継続伊丹市立天神川校219校、小中連携2校 中学校 新規神戸市立学校181校、中高連携 立神陵台、尼崎市立南武庫20校、高校110校、特別之荘、加古川市立志方▽継続校8校、高専1校、続西宮市立浜脇、兵庫教支援学校8校、中学校5校、中学校5校、中高連携3校、高校6校、特別支援学校1校。山手女子▽継続愛徳学園、蒼開【中高連携】新規神戸市立伊川谷▽継続県立神戸高塚、県立兵庫、県立明石西、県立西宮、県立多可通り。

【小学校】新規神戸市播磨

【特別支援】新規県立

立大沢、神戸市立淡河、尼崎市立花南、養父市立宿

せに各校の抱負を掲載)

日本新聞協会は、家族や友人と新聞を読み、話し合つてまとめた感想文が対象の応募があった。兵庫県内の第12回「いつしょに読もう！新聞コンクール」の最優秀に、東京都北区立王子学校奨励賞に5校が選ばれた。子第一小5年、佐藤せり花さんら3人を選んだと発表した。

日本新聞協会は、NIE（教育に新聞を）の2021年度実践指定校に全国541校を決めた。兵庫県内では20校が指定された。

第12回「いつしょに読もう！新聞コンクール」

兵庫から7人と5校入賞

日本新聞協会は、第13回「いつしょに読もう！新聞コンクール」の作品を募集している。（日本新聞協会NIEサイトと推進協サイト・お知らせに詳細を掲載）



神戸の2校でNIEセミナー

情報端末使った記事活用紹介

オンライン含め90人参加

2021年度のNIE兵庫セミナー（兵庫県NIE推進協議会主催）が昨年6月23日、愛徳学園中・高校

（神戸市垂水区）と神戸山手女子中学校（同市中央

区）をオンラインでつないで開かれた。Zoomでも公開し、県内の教員やNIE関係者約70人、県外から

は山形から熊本まで約20人が参加した。

GIGAスクール構想に

対応し、ICT初心者向けのタブレット体験ワークを二つ用意した。

神戸山手女子中学校のまえ一働くことで見えるこ

と題して話した。会場

が、海外特派員の経験を踏

み、購読料を新聞協会と各新聞社が全額負担する。

県内の実践指定校は次の通り。

【小学校】新規神戸市播磨立大沢、神戸市立淡河、尼崎市立立花南、養父市立宿

せに各校の抱負を掲載）

日本新聞協会は第13回「いつしょに読もう！新聞コンクール」の作品を募集している。（日本新聞協会NIEサイトと推進協サイト・お知らせに詳細を掲載）

県立神戸高塚高校

日刊6紙読んで探究活動

テーマを設定、解決策模索

NIE活動の一環で、新中央区の神戸新聞社報道展示室であった。県立神戸高塚高校（神戸市西区）の伊東謙教諭が、生徒たちによる日刊6紙の読み比べから聞記事を探究活動に活用する公開授業（事例発表会）が昨年11月26日、神戸市中央区塚教諭が、生徒たちによる

兵庫県NIE推進協議会が企画。新型コロナ対策として、学校での公開授業の代わりに、事前収録した授業風景の動画も流しながら取り組みを紹介してもらうスタイルにした。

生徒たちは夏休みに興味関心のある記事を10本ずつ選び、2学期、学校に持参。グループ別に自分とほかの生徒の興味分野を比較し、記事を分類・整理するなどして発表テーマを決めた。授業の様子を伝える動画には新聞各紙の記事があふれた。生徒による中間発表の様子も動画で紹介した。発表会はビデオ会議アプリも併用し、県内外の教育関係者約40人が参加した。



新聞の適用法を発表する神戸高塚高校
伊東謙教諭／神戸市中央区東川崎町1

公開授業特集

◆NIE兵庫セミナー、公開授業（事例発表会）とも、担当された先生方の寄稿、参加者のみなさんとの感想を、兵庫県NIE推進協議会サイト内「セミナー・発表会・公開授業」に掲載しています。ご一読ください。

西宮市立浜脇中学校

NIEノートの活用紹介

記事を選び、内容をプレゼン

NIE活動の一環で、日月17日、神戸市中央区の神戸新聞社報道展示室で、「NIEノート」の公開授業（事例発表会）が昨年12月12日、渋谷仁崇教諭が、社会への

NIEノートは、生徒各自が選んだ新聞記事を貼り付け、感想を書き込むノート。生徒たちは毎週、記事を一つ選んでノートにまとめて、社会科の授業の冒頭に電子黒板上でプレゼンテーションしている。

渋谷教諭は「3年生になると、自らの実生活や関心事について多様な発表がみられ、記事の読み比べやニュースの追跡も増える」と説明した。

こちらも発表会は「デオ会議アプリも併用し、県内外から教育関係者ら約40人が参加した。

NIEノート活用の実例を発表する浜脇中学校の渋谷仁崇教諭／神戸市中央区東川崎町1



「命の大切さ」考える

神戸市立淡河小学校

神戸新聞NIE推進部の三好正文シニアアドバイザーが1年生9人に災害報道から「命の大切さ」を学ぶ授業を行った。直前に発生した、静岡県熱海市の大規模土石流の記事を取り上げた。1年生は記事を読むのがまだ難しいため、写真から気づいたことを発表。さらに担任教諭が内容を詳しく説明した。

三好アドバイザーは「命と弱者を守ることが大切」と強調した。
(昨年7月5日)



見出しのコツを伝授

尼崎市立立花南小学校

毎日新聞阪神支局の中村清雅記者が6年生約110人に、新聞の構成や紙面の作り方などを解説した。

毎日新聞社には政治、経済、社会、地方支局などの取材部門があり、日々出稿されてくる記事や写真を、編集部門で整理して紙面を作っていることを紹介した。2005年のJR福知山線脱線事故の紙面を素材に、児童たちに見出しを考えてもううワークショップも行った。

(昨年6月25日)



記事のイロハ伝える

県立播磨特別支援学校

神戸新聞NIE推進部の三好正文シニアアドバイザーが「新規事始め」と題して、普通科と職業科の2年生7人に授業を行った。

伝えたいことから書く「逆三角形」などの記事のスタイルや、アイドルグループ「嵐」の櫻井翔さんと相葉雅紀さんが結婚を同時発表した記事を例に、見出しのつけ方や役割について説明。「見出しどと前文を読みれば必要な情報がざつと分かる」と話した。
(昨年10月22日)

NIE実践指定校19校に記者派遣

NIE実践指定校への2021年度記者派遣事業（出前授業）が昨年6月18日の養父市立宿南小学校からスタートし、1月14日の神戸市立大沢小学校まで派遣回数は19校30回を数えた。記事の構成や見出しのつけ方など、新聞の表現に関するNIE授業の依頼が目立った。一部の授業を紹介する。（推進協議会サイトには、すべての授業の記事と児童生徒のみなさんの感想を掲載しています）

◆NIE実践指定校のみなさまへ
コロナ下の記者派遣事業が本年度も、実践指定校の先生方のご理解ご協力により全20校で実施できる見通しになりました。新聞・通信社の記者による特色ある授業はいかがだったでしょう。

うか。本年度は対象学年を広げ、小学1年生に授業を行えたことも大きな喜びです。今後も感染防止対策を徹底するとともに、これまでと同様、オンライン授業のご希望にも応えてまいります。コロナの収束を切望しながら。

調査報道の意義解説

県立兵庫高校

時事通信神戸総局の丸山実子総局長が「調べ、まとめ、伝え」をテーマに授業を行った。2年生280人が各教室のモニターを通じ、話を聞いた。

探究学習に生かしてもらうのが狙い。コロナ下、高齢者の要介護度が悪化したという同社の全国調査を基にした記事を紹介。「まず結論を明確に伝える」「データなど根拠を示す」と説明し「結論ありきでなく調査の過程を大切に」と呼び掛けた。

(昨年10月4日)

「目指すべき教育」体現

寄稿 記者派遣授業を終えて

神戸市立大沢小学校長 長崎 康子



記者の仕事を初体験

神戸市立大沢小学校

産経新聞神戸総局の入沢亮輔記者が「ニュースって楽しい!」と題し、5年生10人に授業を行った。

記者の仕事の説明や「七つ道具」を当てるクイズの後、実践編「記者体験をしてみよう」では、入沢記者が、読売ジャイアンツのファンという担任教諭に「なぜ、好きなのか」「好きな選手はどうインタビューし手早く記事に上げた。続いて、児童が2人一组で取材し合い、記事を作成した。

(昨年11月24日)



裏付けの重要性学ぶ

県立西宮高校

日経新聞神戸支社の堀直樹支局長が「『裏付け』の大切さ」をテーマに、2年生約280人に講演した。

ネット上に情報がはんらんし、猛スピードで拡散する現代こそ、情報収集時に事實関係の「裏付け」をとり、情報発信時に内容や表現を精査することが極めて重要なと説明した。

複数の人間によるクロスチェックなど、新聞社がどのようにミス防止に取り組んでいるかも解説した。

(昨年11月4日)



「原稿に見出し」実践

加古川市立志方中学校

読売新聞姫路支局の渡部哲也支局長が3年生約60人に、記事の読み方や見出しの役割を伝えた。

記事は大事な内容が最初に書かれていることや、文章を要約した見出しの重要性を語った。

読売中高生新聞に掲載された女優・川菜李奈さんのインタビュー記事の見出しを考えてもらつたほか、受験控えた生徒たちに「直接に備え、日々のニュースに敏感になってほしい」と話した。

(昨年12月7日)



メディア巡り座談会

兵庫教育大附属中学校

小林宏之記者が「ミラライに必要な力」と題して授業を行った。

各教室にリモート配信し、全室260人が聞き入った。

小林記者は「記者は、書いた記事が社会を動かすこともあり、何かに貢献もできる」と説明。メディアをめぐる座談会もあり、各学年の代表生徒と討論する中で、小林記者は「常識をわきまえつつ、常識にとらわれず生きよう」と呼び掛けた。

(昨年11月19日)

産経新聞神戸総局の入沢亮輔記者に授業を行つていただきた。

実践編「記者体験をしてみよ

う」では、子どもたちが「好き

なこと」をインタビューし合つた。メモ取るのが追いつかな

かったり、次の質問を考える余裕がなかつたりと苦戦していたが、記事を書くのは予想以上にスムーズにできた。

実は、教室前に入沢記者のモ

デル原稿が映し出されていて、それを見習いながら全員が時

間に書き上げた。「友達の知らない面を知ることができた」「楽しかった」などの感想が出された。

今、小学校は、新しい学習指

導要領のもと「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して

いる。入沢記者の実践的な学習は、相手との対話の中から驚きや面白さを聞き出していく活動、つまり主体的に自ら追究していく活動だった。まさに今求められている教育を体現できたと感じた。

兵庫県NIE推進協議会 2021年度記者派遣事業 (22年1月14日現在)

	日付	学校名	テーマ	学年・人数	講師
1	6/18	養父市立宿南小学校	まわしよみ新聞作り	5~6年生12人	兵庫県NIE 推進協議会事務局
2	6/21	神戸市立淡河小学校	まわしよみ新聞作り	5~6年生9人	同上
3	6/23	愛徳学園中・高校	働くことで見えること (NIE兵庫セミナーの記者授業)	高校1~3年生 94人	時事通信神戸総局 丸山実子総局長
4	6/25	尼崎市立立花南小学校	新聞製作の流れと見出しの付け方	6年生約110人	毎日新聞阪神支局 中村清雅記者
5	6/25	県立伊川谷高校	新聞の持つ表現力を考える	1年生30人	兵庫県NIE 推進協議会事務局
6	7/5	神戸市立淡河小学校	「熱海土石流」の記事から命の大切さを学ぶ	1年生9人	同上
7	7/12	同上	「夏」新聞を作る	2~3年生14人	同上
8	7/19	同上	新聞の読み方や記者の仕事を学ぶ	4~6年生17人	同上
9	9/7	伊丹市立天神川小学校	見出しのこつ	5年生132人	同上
10	9/21	県立伊川谷高校	見出しのこつ	2年生12人	同上
11	9/22	神戸山手女子中学高校	選挙報道と主権者教育	高校3年生 約30人	同上
12	10/4	県立兵庫高校	調べ、まとめ、伝える (探究学習における調査内容のまとめ方)	2年生約280人	時事通信神戸総局 丸山実子総局長
13	10/5 10/12	県立伊川谷高校	選挙報道と主権者教育	2年生14人	兵庫県NIE 推進協議会事務局
14	10/6	蒼開中学・高校	新聞記者の仕事とは ～取材の経験談や記事の書き方	中学3年生・ 高校1年生54人	読売新聞洲本支局 加藤律郎記者
15	10/13	県立明石西高校	阪神・淡路大震災(オンライン授業)	1年生40人	兵庫県NIE 推進協議会事務局
16	10/14	尼崎市立立花南小学校	見出しのこつ	5年生95人	同上
17	10/15	養父市立宿南小学校	見出しのこつ	4年生7人	同上
18	10/22	県立多可高校	選挙報道と主権者教育	3年生36人	同上
19	10/22	県立播磨特別支援学校	新聞事始め～新聞について知ろう～	2年生7人	同上
20	11/4	県立西宮高校	「裏付け」の大切さ	2年生約280人	日経新聞神戸支局 堀直樹支局長
21	11/19	兵庫教育大学 附属中学校	ミライに必要な力(講演と生徒との座談会)	1~3年生 約260人	産経新聞神戸総局 姫路駐在小林宏之記者
22	11/24	神戸市立大沢小学校	ニュースって楽しい！	5年生10人	産経新聞神戸総局 入沢亮輔記者
23	11/25	西宮市立浜脇中学校	トライやる事業 ～各分野の講師による授業を取材し新聞をつくる	2年生16人	兵庫県NIE 推進協議会事務局
24	12/7	加古川市立志方中学校	記事の読み方や見出しの大切さ	3年生約60人	読売新聞姫路支局 渡部哲也支局長
25	12/16	尼崎市立 南武庫之荘中学校	選挙報道と主権者教育	2年生約210人	兵庫県NIE 推進協議会事務局
26	12/16 1/13	兵庫教育大学 附属中学校	新聞を使った調べ学習	1~2年生14人	同上
27	12/20	県立神戸高塚高校	記事を書くために大切なこと	1年生約190人	産経新聞神戸総局 岸本佳子総局長
28	1/14	神戸市立大沢小学校	阪神・淡路大震災	1~6年生 64人	兵庫県NIE 推進協議会事務局

※兵庫県NIE推進協議会事務局=神戸新聞NIX推進部 三好正文シニアアドバイザー

シンキングツールを使った授業=愛徳学園中・高校



兵庫県NIE推進協議会コ-ディネーターによる人権問題の授業が昨年11月4日、神戸市垂水区歌敷山3の愛徳学園中・高校であった。学習支援アプリ「ロイノートスクール」を活用し、新聞記事を題材に差別を身近な問題として考えた。

授業は中学3年生30人が参加した。同協議会の石原丈知コ-ディネーターが講師を務め、メプロバスケットボールNBAなどで活躍する八村塁さんと弟の阿蓮さんに、会員制交流サイト(SNS)で人種差別的な内容のメッセージを送られてきた記事を取り上げた。

新型コロナの関連記事を探す高校生=昨年9月21日、神戸市西区伊川谷町長坂、伊川谷高校



WSは「有事のライフライン」としての新聞の役割や、新聞の特長である網羅性・一覧性、正しい情報を得ることの大ささについて知つてもらうのが狙い。同協議会の事務局長が担う。

兵庫県NIE推進協議会コ-ディネーターによる人権問題の授業が昨年11月4日、神戸市垂水区歌敷山3の愛徳学園中・高校であった。学習支援アプリ「ロイノートスクール」を活用し、新聞記事を題材に差別を身近な問題として考えた。

授業は中学3年生30人が参加した。同協議会の石原丈知コ-ディネーターが講師を務め、メプロバスケットボールNBAなどで活躍する八村塁さんと弟の阿蓮さんに、会員制交流サイト(SNS)で人種差別的な内容のメッセージを送られてきた記事を取り上げた。

NIE推進協の取り組み

■ 延べ40校でワークショップ

コロナ関連の記事探す

愛徳学園中・高校(神戸市垂水区)の米田俊彦教諭は「記事の数を数えるのは、一見新聞を読むことから離れていくようでは、紙面の向こうの社会を体感できる貴重な機会になつている」としている。

児童生徒には「コロナの記事がこんなにたくさん、隅々まで載っているのか」と驚きをもつて受け止められることが多い。児童生徒らにその日の朝刊を開き、新型コロナウイルスの関連記事を探す。そんなワークショップ(WS)を、兵庫県NIE推進協議会が続けていた。関連記事は各方面に日々掲載され、感染拡大のピーク時には50本を超えた日も。県内の小学校から大学まで、2020年7月に始めたWSは延べ40回を超えていた。

当し、児童生徒らにその日の朝刊を開き、1面から国際文化、地域、社会面まで各面から関連記事を探してもらう。

21年度総会で秋田会長活動さらに大きく



兵庫県NIE推進協議会総会であいさつする秋田会長=神戸市中央区東川崎町1

新規題材 人権問題学ぶ

差別的な発言を減らすにはどうすればいいか。生徒たちはシンキングツールを使って意見を整理しながら「誹謗中傷以上に応援する」「国連で人種差別解消キャンペーンを行う」など多様な意見を出し合つた。

思考を可視化できるシンキンツールは、他人の意見と比較しながら自分の考えを深めるのに最適なツールといえそうだ。

同様の授業は昨年11月25日、明石市大久保町西島の江井島中学校でも行われ、3年生約120人が授業を受けた。

◆県NIE推進協から学
校園に講師を派遣します

同協議会は学識経験者や教委、県内の学校、新聞・

兵庫県教育委員会、神戸市教委の長田淳教育長は「デジタル社会に適応する力や深い思考力を身に付けるた

め、NIEが重要な役割を果す」と述べた。

年別の教員向けNIE研修を続けています。講師の派遣を希望される学校園は、同協議会☎078・362・7054までお問い合わせください。

子どもを伸ばす新聞活用とは

■ 姫路のアドバイザー3人が座談会



効果的なNIE実践とはー。意見交換する井上教頭(右から二人目)と佐伯教諭(奥)、万寿本教諭(左端)＝姫路市内協議会の石原丈知コーディネーター。

学校の佐伯奈津子教諭の3人。司会は兵庫県NIE推進協議会の石原丈知コーディネーター。

「NIEの効果を知りたい」という声を聞く。新聞を読む子は学力が高いという話もあるが、先が読めない時代、新聞は社会とのつながりを実感できる格好の教材だと思う。長年、姫路で実践を重ねてきたNIEアドバイザー3人に、子どもの力を伸ばす新聞活用術について語り合ってもらつた。(兵庫県NIE推進協議会事務局長)

好きな分野をスクラップ

記事題材にワークシート

新聞のある環境づくりを

実践例について、万寿本教諭は、児童たちに、記事をスクラップし要約させたり、見出しを考えさせたりしていると説明。「児童が社会の動きに興味を持つようになつた。まずは、好きな分野の記事だけ切り抜いてもいい」と話し、「ICTを使ったスクラップなら、さらに取り組みやすい」のではないかと考へる。佐伯教諭は「新聞記事を題材にしたワークシートを作成し、10分間の『朝の学習』で使うと生徒の関心が高まつた」と話しこう付け加えた。「新聞から季節ごとの美しい写真を切り抜いて掲示したことある。楽しめる取り組みが必要では」

「新聞のある環境づくりを進めたい」と話すのは井上教頭。「新聞の閲覧場所に地球儀や辞書を置き、調べ学習できるようにするなど、ちょっとした工夫が大切」と提言する。さらに「SNSだけでは情報が偏りがち。多様な情報を入手できる新聞が見直されべきだ」と強調した。

(詳報は兵庫県NIE推進協議会サイト・兵庫NIE三コースに掲載)

が任命する特任アドバイザーに神港学園高校の中野憲二校長が、同協議会からの推薦で日本新聞協会が任命するNIEアドバイザーに就任した。姫路市立豊富小中学校的井上幸史教頭と、西富市立浜脇中学校の渋谷仁壽教諭が(3人の自己紹介は推進協会サイト・お知らせに掲載)今年1月1日現在、同協議会特任アドバイザー】

【2021年度兵庫県NIE推進協議会特任アドバイザー】
津田康子・伊丹市天神川小学校校長
・神戸山手女子中学校高校教諭▽近藤隆郎
美・姫路市立花田小学校教諭▽佐伯奈津子・姫路市立青山小学校教諭▽吉田裕立
蓮尾真一・明石市立見立小学校主幹教諭▽若生佳久
・同市立大久保小学校主幹教諭▽万寿本寛之・姫路市立尼崎高校教諭▽佐伯奈津子・姫路市立朝日中学校教諭▽近藤隆郎
・神戸山手女子中学校高校教諭▽柿田安史・県立鳴尾立網干高校教諭▽瀧口梓・県立尼崎高校教諭

2021年度兵庫県NIE推進協議会名簿(22年1月現在、○印は新)

会長	秋田 久子	兵庫県NIE推進協議会会长
顧問	西上 三鶴	兵庫県教育長
	長田 淳	神戸市教育長
副会長○	清瀬 欣之	兵庫県立学校長協会会長 (県立姫路西高等学校)
○檜垣 真幸		兵庫県中学校長会長 (神戸市立湊翔南中学校)
○池田 豊樹		兵庫県小学校長会長 (神戸市立丸山ひばり小学校)
摺河 祐彦		県私立中学高等学校連合会理事長 (姫路女学院高等学校)
会員	上月さやこ	県教委高校教育課指導主事
○垣内 賴彰		県教委義務教育課主任指導主事
	山本 茂之	県企画県民部管理局 私学教育課企画専門員
○松田 信吾		神戸市教委学校教科指導課指導主事
滝川 盛幹		日本経済新聞社神戸支社長
岸本 佳子		産経新聞社神戸総局長
堀江 泰史		朝日新聞社神戸総局長
○小山 優		神戸新聞社報道部長
○石川 隆宣		毎日新聞社神戸支局長
○曾根 文朗		読売新聞社神戸総局長
安本 省吾		共同通信社神戸支局長
丸山 実子		時事通信社神戸総局長
事務局 三好 正文		事務局長 (神戸新聞NIX推進部シニアアドバイザー)
石原 丈知		コーディネーター (神戸新聞NIX推進部顧問)
菊地三紀子		事務局員

※昨年6月赴任の読売新聞神戸総局・曾根総局長の自己紹介は推進協サイト・お知らせに掲載